

## 市場の動向

### 【金利】

7月末は1.0%台半ばだった長期金利（10年国債利回り）は、8月末は0.8%台後半へ低下しました。上旬は、米国における急速な景気後退への懸念からリスク回避の動きを受けて、金利は低下しました。中旬以降は、堅調な国内景気指標や米国の過度な景気後退懸念が和らいだこと等により、金利は上昇し低下幅を縮小させたものの、月間では低下となりました。



### 【外国為替】

7月末に152円台半ばであったドル円は、8月末には144円台後半となりました。上旬は、米国の軟調な経済指標を受けて急速な景気後退が懸念され、円高ドル安となりました。中旬以降は、一時はドル高となる場面もありましたが、米金融当局高官が早期利下げを示したことから円高ドル安が進行し、月間でも円高ドル安となりました。7月末に164円台後半であったユーロ円は、8月末には160円台半ばとなりました。上旬は、世界的な株安を背景としたリスク回避による円買い等により、円高ユーロ安となりました。中旬以降は、一時はユーロ高になったものの、欧州における物価指標及び賃金上昇率の鈍化を背景に利下げ期待が高まったことで円高ユーロ安となり、月間でも円高ユーロ安となりました。



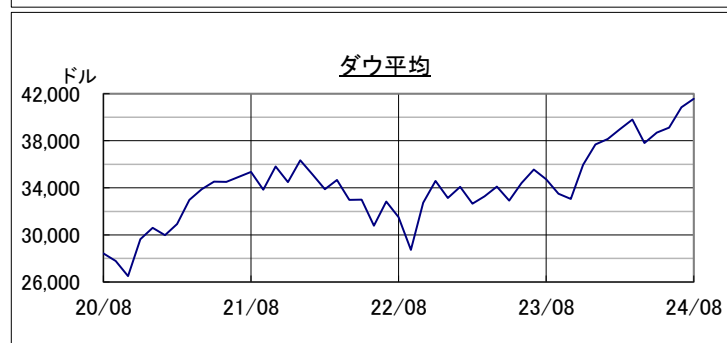
### 【日本株式】

7月末に39,101円だった日経平均は、8月末には38,647円と下落しました。上旬は、米国における急速な景気後退懸念が嫌気され、株価は下落しました。中旬以降は堅調な米経済指標から過度な景気後退懸念が和らいだことや国内企業好決算を受けて上昇し、下落幅を縮小させたものの、月間では下落しました。



### 【外国株式】

7月末から8月末にかけて、米国市場ではNYダウは1.8%上昇、NASDAQは0.6%上昇しました。欧州市場ではFTSE（英国）は0.1%上昇、DAX（ドイツ）は2.2%上昇しました。米国市場では、上旬は米国における軟調な雇用指標を受けて急速な景気後退が懸念され、株価は下落しました。中旬以降は、米国の経済指標が市場予想を上回ったことや米金融当局高官が早期利下げを示唆したこと等が好感され株価は上昇し、月間では上昇となりました。欧州市場では、上旬は米国における急速な景気後退懸念が嫌気され、株価は下落しました。中旬以降は、米国の景気後退懸念が和らいだことや、欧州域内の賃金上昇率の鈍化を背景に利下げ期待が高まったこと等により上昇し、月間では上昇となりました。



## お客様にご確認いただきたい事項

### ご負担いただく費用などについてご確認ください。

- お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等にあてられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。
    - 保険契約の締結、維持に係る費用
    - 特別勘定の運用に係る費用
    - 死亡保障などに係る費用
- ※控除される費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。
- 契約日から10年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。
    - ※上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。
    - ※保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

### 運用リスクについてご確認ください。

- 変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。
- 特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。
  - 国際型 外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。
  - 株式型 日本の株式を中心に運用します。
  - 総合型 日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。
- 各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。
- 変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金は最低保証されません。